

第2学年 国語科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【国語科の学習の目標】

《学習のねらい》

- ① 想像力をつけ、また、想像することの喜びを知る。
- ② 筋道を立てて、物事を考える力をつける。
- ③ 他の人の意見を受け入れるだけでなく、自分自身で物事の良い点や悪い点をとらえ、その価値を判断できるような力を育成する。
- ④ 古典学習を通して、古典に親しみ、古典の面白さを味わうと共に、伝統を受け継ぐ力を養う。
- ⑤ 言葉によって自己を表現すると共に、相手の言葉を理解することで、コミュニケーション能力を高める。
- ⑥ 自分に必要な情報を選択し、信頼性を見極めながら、正しい情報を収集する力を高める。
- ⑦ 言葉の力を支える基礎基本を身に付ける。
- ⑧ 自分の考えを的確に伝える文章力を身に付ける。

2 学習方法

【常に授業に持ってくるもの】教科書・ファイル・級別漢字クラブ・漢字練習帳

【授業に応じて持ってくるもの】ワーク・文法ワーク・硬筆ペン・練習帳・書初め用具・画仙紙

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

<思考・判断・表現>

筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。

<主体的に学習に取り組む態度>

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【評価の方法】

各観点とも、国語科では、ワークシート・行動の観察・自己評価・相互評価・定期テスト・小テスト・学習ノート・ワーク・作品や発表などで評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介文を書こう ～オリエンテーション～ 詩「虹の足」「豚」 いろいろな立場や考えを踏まえる 硬筆（硬筆展に向けて） 小説「タオル」 文法「名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞」 新聞の投書を書く まちがえやすい漢字 論説「日本の花火の楽しみ」 「水の富士山」 課題を設定して伝える 手紙を書く（敬語） 読書「夢を跳ぶ」 相違点を明確にして聞く 話し言葉と書き言葉 1学期の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の学習の進め方や持ち物の確認。 表現技法、朗読の工夫。 考えに応じた材料の整理。 行書の点画の特徴。 情景描写の理解。 品詞の種類や用法。 構成の検討。 まちがえやすい漢字。 情報と情報の関係。 主張と根拠の検討。 意図や目的にふさわしい語句や文の使い方。 抽象的な概念を表す語句。 情報収集の方法。 言葉の特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを理解し、学習を効果的なものとする。 語感を豊かにする。 思いや考えを伝え合う。 言語文化を大切にする。 登場人物の言動の意味を考える。 文の成分や構成を理解する。 自分の考えを書く。 意見と根拠について理解する。 話の構成を工夫する。 敬語のはたらきを理解する。 自分の考えを広げたり深めたりする。 資料や機器を用いる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「SNSから自由になるために」 持続可能な未来を創るために 論説「紙の建築」 構成を明確にして説明文を書く 文法「動詞、形容詞、形容動詞」 古典「敦盛の最期」「枕草子」 「徒然草」 「孔子の言葉」 「坊っちゃん」 短歌の味わい 「夏の葬列」 映像作品の表現を考える 書き初めを書く 「ガイアの知性」 2学期の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの表現の在り方。 SDGsについての知識。 文章全体の構成の理解。 具体例を示しながら、自分の考えが伝わる作文。 用言の種類、活用。 古文らしい表現の理解。 漢文訓読の方法。 夏目漱石についての理解。 短歌の形式や句切れ。 場面の展開、心情の変化。 絵コンテの仕組み、特徴。 行書の特徴を理解する。 具体的例の筆者の意図 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの性質を知る。 自分の考えを広げたり深めたりする。 具体と抽象について理解する。 意見と根拠について理解する。 用言の活用を理解する。 話全体がどのようにまとめられているを考える。 登場人物の行動、意味を考、内容を解釈する。 語感を磨き語彙を豊かにする。 語彙を豊かにする。 行書に調和した仮名を書く。 主張と例示の関係を捉える。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 確かな根拠をもとに意見文を書く 論説「学ぶ力」 討論をする 文法「助詞、助動詞」 小説「走れメロス」 「連作ショートショート」を書く 3学期の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 情報整理の仕方。 考えの比較。 文章と体験の結び付け。 役割や討議の在り方。 付属語の理解 心情変化 情景描写 物語の創作 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を工夫する。 話し手の考えと自分の考えを比較する。 自分の体験を思い起こし、考えを深める。 自分の考えをもち、討論する。 文の成分の順序や照応について理解する。 心情の起伏や表現技法について理解する。 表現技法を使ってみる。

第2学年 社会科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【社会科の学習の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会における平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な資質・能力を身に付けることを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席（授業道具を机の上に置く） ・忘れ物はしない。（授業道具、宿題）
- ・集団で学習していることを自覚しよう。（発言は挙手、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表しよう。

【学習のしかた】

- ・板書したことや授業内でのメモは、ワークシートに上手にまとめる。その際に色ペンを使うなどし、わかりやすく工夫する。授業の最後に学習したことをまとめや、課題を考察し、その日の学習を振り返る。

【ファイルの使い方】

- ・地理と歴史の両分野で同じファイルを使います。 ・ファイルは定期的に点検します。

【授業に持ってくるもの】

- 地理……教科書、資料集、地図帳、ファイル
- 歴史……教科書、資料集、ファイル

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

日本の国土と歴史等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりすることができる。また、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

日本の国土と歴史等について、学習問題を追究し、解決しようとしている。また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

【評価の方法】

各観点とも、A、B、Cで評価します。その評価に基づき、5段階の評定を出します。社会科では、定期テスト、各授業の振り返りやまとめ、レポート、小テスト、自主学習などで総合的に評価をします。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 近世の日本 日本のさまざまな地域 <p style="text-align: center;">↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人との出会いと全国統一 江戸幕府の成立と対外政策 産業の発達と幕府政治の動き 地域調査の手法 日本の地域的特色と地域区分 	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人の来航、交易の広がり、世界の動きと統一事業による影響や社会の変化の様子を基に、近世の社会の変化の様子を理解する。 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 縮図の大きな地図や主題図、背景写真などを活用して土地利用、地形などを読み取り、身近な地域で見られるさまざまな地理的事象について理解する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 日本のさまざまな地域 	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方 中国・四国地方 近畿地方 中部地方 東北地方 北海道地方 関東地方 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の四つの項目を取り上げて、日本の国土の地域的特色と地域区分の方法や意義を理解する。 上記の項目を踏まえて地域の共通点や差異、分布などに着目させて、日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 開国と近代日本の歩み 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米における近代化の進展 欧米諸国の進出と日本の開国 明治維新 日清日露戦争と近代産業 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きを理解する。 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上した理由を考察し、表現する。

第2学年 数学科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【数学科の学習の目標】

- (1) 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりすることができるようにします。
- (2) 連立二元一次方程式について理解し、それを用いる能力を養うようにします。
- (3) 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めます。
- (4) 図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養うようにします。
- (5) 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を養うようにします。
- (6) 具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培います。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・問題解決のために、まず自分で考えをまとめるとともに、先生の説明や友達の発表をよく聞いて、数学の見方・考え方の視野を広げましょう。
- ・先生の発問には手を挙げて発表しましょう。また、分からないところは質問しましょう。

【学習のしかた】

- ・答えに至るまでの過程・考え方を大切にしましょう。
- ・間違ったところは、赤で正しい解き方に訂正しましょう。そして、どうして間違ったのかを振り返り、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。

【ノートの使い方】

- ・「めあて」「公式」「見方・考え方」「解き方」「まとめ」などの欄を設け、自分で工夫して、分かりやすく整理しましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書 ・問題集 ・ノート ・ファイル ・三角定規 ・コンパス 等

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

数学において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、技能を身に付けているかを評価します。

<思考・判断・表現>

数学の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

<主体的に学習に取り組む態度>

知識及び技能を取得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている、また、その取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価します。

【評価の方法】

定期テスト、レポート、授業への取組、主体的な表現等を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式の計算 ・ 連立方程式 ・ 一次関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式の加法、減法 ・ いろいろな多項式の計算 ・ 単項式の乗法、除法 ・ 文字式の利用 ・ 連立方程式とその解 ・ 連立方程式の解き方 ・ 連立方程式の利用 ・ 一次関数 ・ 一次関数の値の変化 ・ 一次関数のグラフ ・ 一次関数の式を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすること。 ・ 具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。 ・ 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。 ・ 連立二元一次方程式の必要性とその意味及びその解の意味を理解すること。 ・ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。 ・ 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。 ・ 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。 ・ 一次関数について理解すること。 ・ 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。 ・ 二元一次方程式を関数を表す式とみること。 ・ 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。 ・ 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の調べ方 ・ 図形の性質と証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角と平行線 ・ 多角形の角 ・ 三角形の合同 ・ 証明とそのしくみ ・ 証明の進め方 ・ 二等辺三角形 ・ 直角三角形の合同 ・ 平行四辺形の性質 ・ 平行四辺形になるための条件 ・ いろいろな四角形 ・ 平行線と面積 ・ 四角形の性質の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行線や角の性質を理解すること。 ・ 多角形の角についての性質を理解すること。 ・ 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれら確かめ説明すること。 ・ 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。 ・ 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。 ・ 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見だしたりすること。 ・ 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場合の数と確率 ・ 箱ひげ図とデータの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確率の求め方 ・ いろいろな確率 ・ 確率の利用 ・ 箱ひげ図 ・ データを活用して、問題を解決しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解すること。 ・ 簡単な場合について確率を求めること。 ・ 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。 ・ 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。 ・ 四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解すること。 ・ コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すこと。 ・ 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

第2学年 理科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【理科の学習の目標】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせて、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す。

2 学習方法

【授業の受け方】

- 火、薬品、刃物などの取り扱いに注意するものが多いので、安全に最大限注意を払い、集中した態度で観察・実験に取り組む。
- 観察・実験に取り組む時は、班でしっかり協力して準備を行い、責任をもって後片付けを行う。また、記録をしっかり取り、レポートは自分でよく考えてしっかり書く。
- 生命あるものに対しては尊厳の気持ちをもって、真剣な態度で実験・観察に取り組む。

【学習のしかた】

- 意欲的な姿勢で進んで実験・観察に取り組む。(百聞は一見に如かず)
- 記録をしっかり取る。(気付いたことは、どんどんメモする習慣をつけよう!)
- 自分の考えを進んで発表しようと心がける。自分の考えを自分のことばで書くことを心がける。他の人の意見・考えもしっかり聞く。
- 実験プリントは、授業後に理科係が集めて担当に先生に提出する。
- 板書はノートに工夫してまとめる。(板書以外でも、大切なことや参考になることはメモをとろう。)
- 教科書以外の本(理科の資料集等)も読み、理解を深めたり、詳しく調べたりする。
- よくわからないことについては、積極的に質問する。
- 授業で配付したプリントはファイルにとじ込み、整理整頓して、しっかりと管理する。
- 提出物の期限を必ず守る。

【授業に持ってくるもの】

<教科書・ノート・ファイル・ワーク>

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。

<主体的に学習に取り組む態度>

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【評価の方法】

各観点とも、理科では、定期テスト・実験プリント・学習カード・授業ノート・ワークシート・技能テスト・小テスト・ワーク・行動の観察等で評価を行います。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	物質 化学変化と原子・分子	1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量	<ul style="list-style-type: none"> 物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質は元の物質とは異なることを見いだして理解すること。 物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを知る。 2種類の物質を化合させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解すること。 酸化や還元の実験を行い、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解すること。 化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだして理解すること。 化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。 化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解すること。
2 学 期	生命 生物の体のつくりと はたらき 地球 地球の大気と 天気の変化	1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりと はたらき 3章 動物の体のつくりと はたらき 4章 動物の行動のしくみ 1章 地球をとり巻く 大気のような 2章 大気中の水の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	<ul style="list-style-type: none"> 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。 植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散の働きに関する実験の結果とを関連付けて理解すること。 消化や呼吸についての観察、実験などを行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の結果などと関連付けて理解すること。また、不要となった物質を排出する仕組みがあることについて理解すること。 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けて理解すること。 気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解すること。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力の大きさと面積に關係がることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解すること。 校庭などで気象観測を継続的に行い、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との關係を見いだして理解するとともに、観測方法や記録の仕方を身に付けること。 霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解すること。 前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けて理解すること。 天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解すること。 気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響に関連付けて理解すること。 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。
3 学 期	エネルギー 電流とその利用	1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> 回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解すること。 金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の關係を見いだして理解するとともに、金属線には電気抵抗があることを理解すること。 電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解すること。 異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流には關係があることを見いだして理解すること。 磁石や電流による磁界の観察を行い、磁界を磁力線で表すことを理解するとともに、コイルの回りに磁界ができることを知る。 磁石とコイルを用いた実験を行い、磁界中のコイルに電流を流すと力が働くことを見いだして理解すること。 磁石とコイルを用いた実験を行い、コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることを見いだして理解するとともに、直流と交流との違いを理解すること。

第2学年 音楽科の学習について

1. 授業を受けるにあたって

【音楽科の学習の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

2. 学習方法

【授業の受け方】

- ・時間を守る（チャイム着席を守る） ・忘れ物をしない（音楽バッグに入れて持ってくる）
- ・音楽的な表現や活動ができる気持ちをもって授業に臨む。

【学習のしかた】

- ・説明や話をしっかり聞き、話の中で重要なことはメモを取るようにする。
- ・歌唱では歌う口形や姿勢に気をつけて伸びやかに表現する。
- ・鑑賞では曲や楽器に関心を持ちながら、興味をもって鑑賞する。
- ・ワークやワークシートはしっかり記入する。

【授業に持ってくるもの】※音楽バッグに入れてくる

- ・教科書2冊（音楽のおくりもの2・3年上、器楽）
- ・合唱曲集「コーラスフェスティバル」 ・アルトリコーダー ・音楽ファイル

3. 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。

<思考・判断・表現>

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

<主体的に学習に取り組む態度>

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

- 知識・技能……………定期テスト・実技テストの技能にかかわる項目、ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 思考・判断・表現……………定期テスト・実技テストの思考・判断・表現にかかわる項目、ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 主体的に学習に取り組む態度……………学習カード、定期・実技テストの主体的に学習に取り組む態度にかかわる項目、ワークシートの記入内容など

4. 年間の学習内容

学期	教材名	学習内容	学習のねらい
1 学期	作者の想いを歌声にのせて合唱しよう	発声について理解し、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、合唱する。	声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、合唱のよさや豊かさを味わう。
	曲の構成を聴き取り、オーケストラによる表現を鑑賞しよう	曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、オーケストラの豊かな表現に親しむ。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、オーケストラの豊かな表現に親しむ。
	サミングや息のコンロを身に付けて、表現を工夫しよう	曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲にふさわしい表現を工夫して演奏する。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫し、アルトリコーダーの演奏に親しむ。
	旋律に合うリズムパターンを作ろう	音符の繋げ方によるリズムの違いを理解し、音の選択や組合せを創意工夫する。	音符のつなげ方によるリズムの違いについて理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せを創意工夫し、音に対する感性を豊かにする。
2 学期	混声合唱の響きを味わおう	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、曲にふさわしい表現を創意工夫して合唱する。	曲想と音楽の構造と歌詞の内容との関わりや声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、混声合唱の豊かな響きを味わう。
	雅楽の多様な表現を鑑賞しよう	音楽の特徴と背景や文化との関わりについて理解し、雅楽の響きや表現に親しむ。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、雅楽の響きや表現に親しむ。
3 学期	郷土のさまざまな芸能を味わいながら鑑賞しよう	郷土の音楽の特徴と多様性を理解し、郷土の音楽や芸能に親しむ。	郷土の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、郷土の音楽や芸能に親しむ。
	曲想を味わいながら合わせて歌おう	曲想と音楽の構造や歌詞の内容を理解し、曲にふさわしい表現を創意工夫し、気持ちを込めて合唱する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、気持ちを込めて合唱する喜びを味わう。

第2学年 美術科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【美術科の学習の目標】

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・忘れ物をしない。
- ・作品の提出期限を守る。
- ・説明をきちんと聞く姿勢をもつ。
- ・不要な出歩き・私語はしない。
- ・道具の準備・片づけをしっかりと行う。

【学習のしかた】

- ・取り組む題材の概要を最初に聞く。
- ・制作の手順や計画を立てながら、アイデアを考える。
- ・作品制作を行い、完成させる。
- ・鑑賞会を行い、互いの良さを見つける。

【授業に持ってくるもの】

※教科書・資料集・筆記用具・色鉛筆・ファイルはいつも用意。

指示があった場合持ってくるもの……絵具・タブレット、その他（授業で連絡します）

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。

<思考・判断・表現>

自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

知識・技能……作品制作、プリントなど

思考・判断・表現……デッサン、レポートの作成、作品制作など

主体的に学習に取り組む態度……レポートの記述、授業態度、教科担当における行動観察など

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> • 学びの言葉 岡本太郎 • その一枚が人を動かす 漫画の魅力 文化の出会いがもたらしたもの 	<ul style="list-style-type: none"> • 岡本太郎の作品を通じ、芸術に対する考え方や生き方について考える。 • ポスターなどを鑑賞し、メッセージやイメージを伝えるための工夫について考える。 • 伝えたい情報や場面を見つけて主題を生み出し、発想方法を参考にしながら伝えたいことを効果的に伝えるデザインを材料や用具の特性を生かしてスケッチ、制作する。 • 漫画表現の多様性を学ぶ。 • 自分の意図する面白さを漫画の形式で表現する。 • 西洋の美術作品に影響を与えた日本の美術作品のよさや美しさはどのようなところにあったのか、意見を述べ合う。 • 日本や西洋の美術作品のそれぞれのよさや美しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現代美術のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 • 公募ポスターの制作を通して、デザインにより物事を伝える工夫を学ぶ。 • 構図や色彩が感情にもたらす効果や、線、彫りや摺りなどの特徴を基に、作品の印象などを全体のイメージや浮世絵の作風などで捉えることを理解する。 • コマ割りや構図、吹き出しの形や効果線について学び、効果線や擬声語の線や形の与える効果を意識し、ペンや筆の特性を生かして創造的に表現する。 • 効果線・吹き出しの形の選択・コマ割りや構図・背景の描き込みから表現したかった想いと表現の工夫を読み取り見方や感じ方を深める。 • 構図や色彩、材料などが感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に、日本美術の作風や印象がどのように生かされているかを捉える。 • ジャポニズムの表現の特色や美しさを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫や美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考える
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 瞬間の美しさを形に ひと目で伝えるための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> • 単純化や強調の仕方を工夫して、動きや躍動感が感じられるポーズや形を構想する。 • 構想に沿って適切な材料や用具を選び、その特性を生かしながら立体に表す。 • 完成した作品を鑑賞し、動きや躍動感を表現する工夫などについて話し合う。 • 身の回りにあるピクトグラムを調べ、伝えたい情報が多くの人に伝わるための工夫について考える。 • 単純化や強調を考え、伝わりやすい形や色彩の 構想を練りデザインする 	<ul style="list-style-type: none"> • 形が感情にもたらす効果や、関節や重心の位置など造形的な特徴を基に、動きの感じや躍動感などを全体のイメージで捉えることを理解する。 • 人の動きを深く見つめ感じ取ったことなどを基に主題を生み出し、形や重心の効果を考え創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 • 形や色彩が感情にもたらす効果や、具体物や行為を表す形の特徴から伝達するイメージなどを捉えることができる。 • 意図に応じて自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表現する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> つくって味わう工芸 	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りにある手づくりの製品を鑑賞し、材料のよさや生かし方などについて考える。 • 手になじむ感覚や使いやすさなどを考えながら材料や用具を工夫し、生活を豊かにするものを制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 材料の特性や質感が感情にもたらす効果や、造形的な特徴や加工法を基に、材料の持ち味を全体のイメージで捉えることを理解する。 • 材料や用具などの特性を生かし意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表現する。

第2学年 保健体育科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【保健体育科の学習の目標】

体育・保健の見方・考え方を学び、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を鍛えます。また、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てることを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業開始のチャイムが鳴る前までに準備をし、指示された場所へ移動し整列します。
- ・体育着、もしくはジャージを着用します（ジャージ着用期間の目安は11月～3月まで）。
※それ以外の期間のジャージ着用は天候、気温等に配慮して指示を出します。
- ・校庭での実技は、運動靴で実施します（ハイカットや裏が平らな運動に適さない靴、スパイクは不可）。
- ・体育館での実技は、上履きで実施します（学校指定の上履き）。
- ・靴下は生徒手帳に記載されている物を着用します。
- ・保健分野の学習は、教室、視聴覚室、体育館で実施します。服装はその都度連絡があります。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきましょう。（授業用具、学習カード等）
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。（発言は挙手、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・友達の意見はしっかり聞き、わからなかったところは、そのままにせず質問をしましょう。
- ・体育小屋や体育倉庫の用具を使うときには、丁寧に安全に扱きましょう。

【学習のしかた】

- ・授業で板書したことは学習カードに上手にまとめましょう。・・・色ペンの活用、余白の活用。
- ・テスト前は、授業プリントや教科書を繰り返し確認しましょう。

【ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・プリントは定期的に点検します。未記入や未提出がないようにして下さい。

【授業に持ってくるもの】

- ・体育の授業、保健の授業ともに教科書、ファイルはいつも持ってきます。
※その他必要なものは、授業の内容によって違います。教科係を通じて毎回連絡しますので、準備をしましょう。

【見学する場合】

- ・見学する場合は、生徒手帳に理由を記入、押印し先生に提出します。体育委員にも連絡します。
- ・登校した後、急な体調不良のため見学する場合は、先生に申し出ます。
- ・見学が長引く場合は、毎時間生徒手帳を出さなくてよいですが、先生に申し出ます。
- ・保健室に行き、授業に遅れる場合は体育委員、保健委員、学級委員のいずれかに連絡をします。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

<思考・判断・表現>

運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

<主体的に学習に取り組む態度>

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を養う。

【評価の方法】

授業態度、提出物、技能（記録の向上、スキルテスト）、学習カードの記述内容、レポートの内容、単元テストなどをもとに総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上運動 ・球技 ・水泳 ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体の動きを高める運動 ・短距離走、リレー ・ネット型 卓球 ・バドミントン ・クロール ・背泳ぎ ・傷害の防止 ・心肺蘇生法 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と手軽な運動を通して、心と体の関係に気付く。 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができるようにする。 ・滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができるようにする。 ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができるようにする。 ・傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止できることを理解する。 ・包帯法やAEDの使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようにする。また、危険を予測しその回避の方法を考え、それらを表現できるようにする。 ・胸骨圧迫など実習を通して応急手当ができるようにする。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・器械運動 ・球技 ・陸上競技 ・陸上競技 ・球技 ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体の動きを高める運動 ・跳び箱運動 ・ベースボール型ソフトボール ・ネット型バレーボール ・走り幅跳び ・走り高跳び ・長距離走 ・ゴール型バスケ、ハンド ・健康な生活と疾病の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と手軽な運動を通して、心と体の関係に気付く。 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができるようにする。 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うことができるようにする。 ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をする。 ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ・スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶようにする。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切り、大きな動作で跳ぶようにする。 ・ペースを守り一定の距離を走ることができるようにする。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。 ・生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠不足などの生活習慣の乱れが、主な要因となって起こることを理解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス ・球技 ・保健 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムのダンス ・ゴール型サッカー ・健康な生活と疾病の予防 ・運動やスポーツの意義と効果と学び方や安全な行い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え健康を損なう原因となることを理解させ予防していく。 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解できるようにする。

第2学年 技術・家庭科(技術分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(技術分野)の学習の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席：(授業道具を机の上に置く) 技術室では、身支度・準備を整え、チャイム着席をしましょう。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきてきましょう。
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。(発言は挙手、私語厳禁)
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・工具や機械の使い方を守り、常に安全を心がけ作業しましょう。
- ・わからないところは、そのままにせず質問し、課題意識をもって授業に取り組みましょう。

【学習のしかた】

- ・板書したことはプリントに上手にまとめましょう。(色ペンや余白の有効活用)
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直してみましょう。
- ・授業で実習したことを活かし、家庭で電気の保守点検や栽培をしてみましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配布したプリントは、必ずファイルに閉じましょう。
- ・授業中に先生が話したことは、余白を活用しまとめておきましょう。
- ・疑問に思ったこと、もっと調べてみたいことはメモしておきましょう。
- ・プリント類は定期的に点検します。未記入やプリントの不足がないようにしましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書、ファイル、筆記用具はいつも用意しましょう。
- ・作業学習の際は体育着や学校ジャージが必要になります。

※その他持ち物は、授業の内容によって変わるため、教科連絡で確認するようにしましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。

<思考・判断・表現>

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。

<主体的に学習に取り組む態度>

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしているか。

【評価の方法】

授業態度、技能、作品、発表、プリントの記入、宿題、レポート、定期テストなどを総合的に評価します。宿題、レポート等は必ず提出しましょう。

4 年間の学習内容

	教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術を探る 	<ul style="list-style-type: none"> 熱、光、動力への変換 電気機器の構成と、回路図 製作品の構想 	<ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギーを変換して利用するための仕組みを理解し、機器の仕組みを説明することができる。 電気機器の構成と、回路図を用いた表し方を理解することができる。 使用条件を基に製作品を考え、構想を整理し、考えをまとめることができる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換を利用した作品の設計、製作 	<ul style="list-style-type: none"> 電気回路の構成 動力伝達の仕組み 運動を変化させるための仕組みと利用法 	<ul style="list-style-type: none"> 設計に基づき、製作品の部品加工、電気回路の配線、組立て、調整等について考えることができる。 動力を効率よく伝える仕組みを知り、それぞれの特徴を理解することができる。 目的に合わせて運動を変化させるための仕組みを理解し、どのように利用されているかについて理解することができる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換を利用した作品の設計、製作 エネルギー変換の未来 生物育成について探ろう 生物育成の未来を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の計画表、工程表、部品図のまとめ 作品の設計、製作 機器の安全な利用、保守点検 社会、環境との関わり エネルギー変換に関する技術とわたしたち 育成する生物の生長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調整方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解することができる。 自分の栽培する作物の計画をまとめ、見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的や使用条件を基に、製作品の構想を整理し、製作に必要な計画表や工程表、部品図などにまとめることができる。 エネルギー変換を利用した作品の構想をまとめて、製作品に必要な図を作成することができる。 目的と使用条件を考慮し、製作品を完成させることができる。 機器の手入れや点検について知り、事故防止の具体的な方法を身に付けることができる。 運動の仕組み・機構や構造、必要な機械部品や電気回路・電気部品、材料・加工法など、構想を検討することができる。 エネルギー変換に関する技術の評価と活用について、主体的に考えることができる。 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画について考えている。

第2学年 技術・家庭科(家庭分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(家庭分野)の学習の目標】

家庭分野の学習を通して、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する能力を身に付けることを目指します。

具体的には、(1)生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに技能を身に付ける (2)課題を解決する力をつける (3)よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う の3つの柱です。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業に必要なものをしっかり準備しましょう。(授業道具、課題など)
- ・チャイム着席(授業道具を机の上に置く)
※被服室や調理室では、身支度、準備を整え、チャイム着席しましょう。
- ・課題解決に向けて自分の考えをもち、工夫して解決できるようにしましょう。
- ・自分の考えを積極的に発表するとともに、友達の意見はしっかり聞きましょう。
- ・特別教室の道具を使うときには、丁寧に安全に扱きましょう。

【学習のしかた】

- ・毎時間授業プリントを配付します。重要なことはメモをとりながら工夫してまとめましょう。
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直し、教科書もよく確認しましょう。
- ・授業で実習したことを家でやり直し、実践力を身に付けましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・授業プリントは定期的に点検します。自分の考えをきちんと文章でまとめましょう。

【授業にもってくるもの】

- ・教室での授業は、教科書、ファイル(授業で配付)はいつも持ってきます。
- ・調理室での授業・・・三角巾、エプロン、ふきん等が必要です。
※その他必要なものは、授業の内容によって違いますので、連絡をよく聞きましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な内容を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

<主体的に学習に取り組む態度>

自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組もうとしたり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとしている。

【評価の方法】

学習の足あと(授業記録カード)、ワークシートの記述内容、定期テスト、行動の観察、作品、製作計画表、実践記録表、家庭での実践レポート等の内容を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	題材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・快適・安全で持続可能な住生活 ・健康・安全で豊かな食生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能と安全な住まい方 ・安全で快適な室内環境 ・健康と食生活 ・食事の役割と中学生の栄養の特徴 ・中学生に必要な栄養を満たす食事 ・調理の基本 ・野菜の調理 ・環境に配慮した食生活 ・1学期期末テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。 ・家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。 ・生活の中で食事が果たす役割について理解することができる。 ・中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について考え、工夫することができる。 ・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質を理解することができる。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解することができる。 ・中学生の1日分の食事について考え、工夫することができる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意して管理について理解し、適切にできる。 ・野菜に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・環境に配慮した食生活について考え、工夫することができる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全で豊かな食生活 ・生活についての課題と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択と保存 ・肉の調理 ・魚の調理 ・2学期期末テスト ・生活の課題と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解するとともに、適切にできる。 ・肉の調理上の性質を知り、加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫することができる。 ・魚の調理上の性質を知り、加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活における日本の生活文化の継承 ・自立した消費者となるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化や行事食を知ろう（だしをとる、蒸し料理） ・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任 ・学年末テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を生かした日常食の調理を通し、地域の食文化に関心をもつ。 ・地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫することができる。

第2学年 G・S科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【G・S科の学習の目標】

- 場面や状況、相手のことを考え、積極的にコミュニケーションを図る。
- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- 目的や場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について簡単な情報交換ができる。

2 学習方法

【授業の受け方】G・Sでは主体的な姿勢が大切です。次のことを特に大切に活動しましょう！

- ① 時間を大切に使う（授業前の準備、活動に集中する、時間内に完成させるなど）
- ② 誰とでも協力して活動を行う（G・Sはコミュニケーションの授業）
- ③ おもいやりを持って活動する（ルールやマナーを守る）アイコンタクト、あいさつ、スマイルなど
- ④ 関心を持って、世界を広げる（掘り下げる）

【授業に持ってくるもの】

- 5点セット（教科書、英語のノート（4線）、ファイル、ワーク、Reading Steps +その他）

【学習するときのポイント】

- ① 英語を使ってしたいことをイメージする（これが1番大事！）
言語の学習では、学習の目的が大切です。その言語を使ってどんなことをできるようになりたいのか、ぜひイメージして勉強をしましょう！
- ② 英語の発音の仕方を理解して、練習する（英語耳をつくろう！）
言語の学習の成功のポイントは、発音と文字の一致です。特に文字の発音の仕方をよく理解することは、上達の近道です。たくさん練習をして、音を覚えましょう。
- ③ 語彙力（発音・意味・スペル）をつける（テスト形式でやるとよい）
言語の学習の基礎基本は語彙力です。たくさんの言葉を知っていれば、理解できることが増えます。使える言葉やフレーズが増えれば、伝えられることも増えます。毎日こつこつ言葉を使って覚えましょう。
- ④ とにかくたくさん英語を話そう！（語学の上達はトライ＆エラーの数で決まる！）
英語上達の秘訣はズバリ、たくさん聴いて、たくさん話して、たくさん読んで、たくさん書くことです。英語なんだから間違えて当たり前です。間違えたことが上達につながります。たくさん英語を使いましょう！
- ⑤ 好奇心を大切に！【気になったことはどんどん調べよう 辞書、ネット、先生、家族、友達から】
気になったことは、好きになる入口です（きになる→すきになる）。好きなことが増えると楽しみが増えます。人生が楽しくなってきます。なので、気になったら調べましょう！今はネットがあるので便利ですね。
- ⑥ 日本語と英語は”ちがう”ということを知る
日本語と英語はちがいます。人がそれぞれちがうのと一緒で、ちがうところがたくさんあります。だから戸惑ったり、ストレスを感じることもあると思います。しかし、”ちがう”から良いのです。ちがう見方や考え方ができるようになります。”ちがう”から面白いんです。ちがうとわかっていれば、理解しようと思えます。それが勉強の始まりです。英語は私たち日本語で物事を考えてる人たちにとって、とても新鮮で、新しい景色を見せてくれる言語です。英語はあなたの人生を豊かにしてくれます。Learning English will make your life better.

3 評価の観点と評価材料

評価の観点	評価方法
【知識・技能】 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・授業で出される課題 ・言語活動への取組 ・提出物等
【思考・判断・表現】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・授業で出される課題 ・言語活動への取組 ・提出物等
【主体的に学習に取り組む態度】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。	・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・授業で出される課題 ・言語活動への取組

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容		単元名	主な学習内容
1 学 期	Program 1 Program 2 Power-up 1 Step2 Program 3 our Project4	・be going to /will と動名詞 ・that 節, 接続詞 if, when ・天気予報の表現 ・魅力的な伝え方 ・不定詞 ・魅力的な CM 作り	2 学 期	Program 6 Power-Up4 Step4 Our Project 5 Reading 2	・比較級, 最上級, as~as ・メールの書き方 ・わかりやすい説明のポイント ・ポスターを作成しよう ・物語を読んで理解する
2 学 期	Reading 1 Power-Up2 Program 4 Power-Up3 Step3 Program 5	・物語を読んで理解する ・電話の表現 ・不定詞、must、have to~ ・レストランで会話表現 ・わかりやすい見出しについて ・疑問詞+to 不定詞、look 形容詞 第4文型 ~に…をする	3 学 期	Program 7 Program 8 Power-up5 Step5 Our Project 6 Reading 3	・better, best. tell 人 to~ ・受動態 ・飛行機のアナウンス ・説得力のある説明をしよう ・My hero の紹介 ・物語や説明文を読み、感想や紹介文を書く

第2学年のコミュニケーション学習の到達目標 (CAN-DO リスト)

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
①少し長めの議論でも、なじみのある内容であれば、その要点を理解することができる。 ②買い物や道案内などの場面で必要な情報を聞き取り、行動できる。 ③話し手自身のことや、学校などのなじみのあることについて、話されている概要や要点を捉えることができる。	①短い物語や伝記、場所や文化の紹介などの説明文の内容を理解することができる。 ②挿絵や写真を参考にしながら、簡単な語を用いて書かれた物語のあらすじなどを正しく読み取ることができる。 ③日常的なトピックを扱った話の内容や書き手の意見の概要などを捉えることができる。	①買い物や身近な話題について、簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、いろいろな工夫をして話を続けたりすることができる。 ②聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりすることができる。	①日本や、日本の伝統、文化に関して、まとまった英文で発表することができる。 ②なじみのあるトピックに関して、考えが伝わるように話の構成を考え、適切な音声で発表することができる。	①書き方のきまりに従って、書くことができる。 ②自分の考えが読み手に正しく伝わるように、文章構成に注意して文章を書くことができる。 ③読んだことをもとに、話の概要や主人公の心情、自分の感想を、辞書などを用いて書くことができる。